

台湾日本語教育実習 報告書

期間：2014 年 3 月 2 日～3 月 29 日

実習先：国立屏東商業技術学院

麗澤大学外国語学部

日本語・国際コミュニケーション専攻

池田真紀子

まず始めに、私がこの実習プログラムに参加した動機は、実際に現場を見学することによってより日本語教育について理解が深まると思ったのと、第 2 言語として中国語を勉強している私にとって台湾は日本語教育を含め、言語や文化を知る絶好の機会であると思ったからである。

4 週間、国立屏東商業技術学院の応用日本語学科 1 年のみなさんと一緒に過ごし、教壇実習を行う機会を設けていただき、本当に感謝の気持ちでいっぱいだ。大学で勉強するのと、実際に教育現場で勉強するのでは、見えるものが異なった。学習者はどこで間違えやすいのか、直接法は何を注意しなければいけないのか、指導案にない質問があったらどう対処するのか、など現場に行かなければわからなかったことがたくさんあった。屏東商業技術学院での教育実習は環境に恵まれていたと私自身は思う。先生は、やりたいことがあればそれを否定せず挑戦させてくれるチャンスを与え、アドバイスも先生なりの正解ではなく、自分たちで考えるようにヒントをくださった。学生たちも私たちに協力的で、最後の週では積極的に日本語で話してくれる人や、質問をしてくる生徒が増え、嬉しかったとともにやりがいを感じられた。反省点としては、先生の期待に応えるわけではないが、自身ももっと頑張れたのではないかと、言うこと。日本語教育以外にも、その国について知ること、学生たちと触れ合うことは大切だが、時間の割り当てをもう少し考えるべきであったと思った。

善かった点や悪かった点を含め 4 週間で終えての感想は、屏東商業技術大学で教育実習ができてよかったという一言に尽きる。先生方は熱心に指導してくださった。授業と授業外をわきまえていて、時には厳しい指摘を受けることもあったが素直に受け止めることができた。学生たちにも感謝の気持ちでいっぱいだ。週末や、授業が終わったあとには、元気な学生たちがご飯へ連れて行ってくれた。授業外でも彼ら彼女らは、親切で最高なおもてなしをしてくれて温かい気持ちになった。李先生の授業の一環で流れた「福笑い」という日本の曲が紹介されていた。その歌詞のなかで、「この世界の共通言語は、英語じゃなくて笑顔だと思う」という一節があった。この言葉が今とても心に響いている。今回は初級レベルで、直接法では通じ合えないこともあり、学生が理解していないのではないかと不安になることもあった。しかし、授業外でも彼らは積極的にご飯に誘ってくれ、一生懸命話そうと努力していた。覚えた文型を笑顔でそのまま使う生徒や、教えた日本語を何度も繰り返し使う生徒もあり、完璧じゃなくても一生懸命やることの大切さ、人への思いやりやおもてなしと一緒に生活していて彼らから学ぶことができた。私が初めて教育実習をした可愛くて元気で優しい生徒たちだ。

実際に来なければわからないこと、見えなかったもの、感じられなかったものがたくさんあった。この 4 週間は私にとって宝物である。国立屏東商業技術学院の応用日本語学科の皆様、一緒に教育実習を行った姫路獨協大学の皆様、関わったすべての皆様に感謝の気持ちでいっぱいだ。この気持ちを忘れず、今後の人生に生かしていきたい。